

12 モノづくりによるヒトづくり

モノづくりによるヒト作りを基本としたSDGs活動を目指す。

目的・目標を明確にする。→基本理念

やる気がみなぎる人材を集める。

専門のサポートチームを結成。→コーチングを基本として

プレーヤーが育つ組織づくりを目指す。

積極的に「アクション」を起こし、変化をもたらす。→機会の創出。

【環境の整備】 デジタル化構想

インフラ整備が重要であり、より積極的に整備を行いデジタル化の促進し効果的なツールの活用により成果を出す仕組みを構築する。

【起業家のサポート体制の構築】→専門家が集まる仕組みを構築する。

※自然的にプロジェクトが立ち上がる仕組みを構築する。

チャレンジする方を生み出す。→コーチングが出来る人材を集める。

専門家が積極的に参加できる環境→外部の人材との交流の場作りを目指す。

→違う視点での意見交換。多様性。日本だけではなく世界との交流も視野に入れる。

テーマごとにプロジェクトチームを立ち上げ、成功事例を多く作り上げて共有化を図る。

※プロジェクトを任せてリーダーが育つ仕組み作り。（地元の元気な方を生み出す）

※障害となっている事を解決できるチームを立ち上げる。

サポートチームを通じた交流を深めて様々な組織へのアプローチを行い拡大させる。

重要な事は、奄美の優位性を生かした活動を基本とする。

【ヒト作り→リーダーの育成】

地元の方々が主体となって使い倒せる仕組み。→主体となるのは地元、奄美の方々特に子供たちの可能性を生かせる取組により長期の展望を見据える。

※数十年先のリターンを期待し先行投資的な活動

主役は若者→若者の力を発揮させる仕組み作り。

→のびのびとやらせる・任せる（大きなマインドで見守る）

デジタル化してどのような変化を起こせるかを「ワクワク」する活動を推進させる仕組みを作り出す。 ※メリットを感じさせる仕組みとして自立をさせる。

自発的な活動を基本とする。→失敗を恐れない・責めない

何度でもチャレンジできる仕組み作り。

【人材交流を広げる】

奄美ならではの人材交流を行い、より多くの方々が喜んでくれる場をつくり出す。

宿泊・食事・地産地消→大量生産ではない仕組みと小回りのメリットを生かす。

生産者と消費者の距離を縮める。

●在庫管理&供給ネットを活用した低コストの仕組みを構築。

●一人ひとりが主役となり活動従来型の力のあるリーダーではなく、多くの方が参加できる仕組みとする。

(福永利信)